

第3 挙動 下段払い

(第6 挙動)



写真 41 上段揚げ受け



写真 42 追い突き



写真 43 下段払い

左四股立ち下段受けは、左四股立ち下段突きへの受けと解され、通常次のように分解されている (写真 44 ~ 46)。



写真 44 上段揚げ受け



写真 45 追い突き



写真 46 下段払い

本当に受けで終わってよいか、受けには常に攻撃が隠されているはずである。

前段の揚げ受けからの変化を考えられないのか？

揚げ受けを変化させ、手首を捕らえ体を落としながら四股立ちに開き、型通りに下段受けの軌道で手を回せば、相手は肩、肘、筋を極められ倒れる。

(四股立ちは投げ、逆等取手の技法に用いる事多し)

裏分解 下段払い 投げ



写真 47



写真 48



写真 49



写真 50

左揚げ受けの手を開き、手首を捉え引き崩し、上段突き。

開掌にした揚げ受けで相手の手首を捉え引き崩し、次指丘で橈骨の急所を抑え極める。右足を四股立ちに開き、相手の体勢を崩す。

左手を四股立ちの開く方向に引き、下段受けの要領で回すと、急所を極められた相手は体勢を崩され抵抗することが出来なくなる。



写真 51

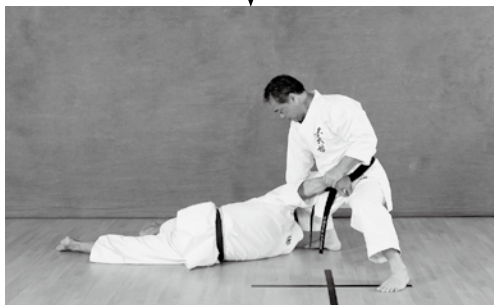


写真 52